

# 地域丸ごと再生の核となった多世代の家「ドルフリンデランゲンフェルト」 ゆりかごから墓場までを体現する機能複合を分散ネットワーク型で整備した「多世代の家」

”DORFRINDE LANGENFELD”, GENERATIONA HOUSE AT THE CORE OF THE REGENERATION  
OF THE WHOLE REGION.

A 'Generational house' with a decentralised network of functional complexes embodying cradle-to-grave.

○米ヶ田 里奈<sup>\*1</sup>, 山田 あすか<sup>\*2</sup>  
MEKATA Rina and YAMADA Asuka

This paper describes the initiatives of the German village of Langenfeld, with a population of approximately 1,000 people, which utilised a number of vacant houses in the central area of the village and developed a decentralised network of basic living facilities. It was found that the way in which the villagers were able to gain sympathy through a clear statement of village policy, well-balanced measures based on an accurate analysis of the advantages and problems of the village, and an analysis of the problems focusing particularly on the living environment for young people, led to an increase in the population of young people.

*Keywords : Depopulated areas, population decline, marginalised communities,  
regional revival, livelihood infrastructure*  
過疎地域, 人口減少, 限界集落, 地域再生, 生活基盤

## 1. 本稿の概要

本稿では、ドイツの連邦プログラムである「多世代の家」事業を通して集落丸ごと再生を実現している、ランゲンフェルト (Langenfeld) 村のドルフリンデランゲンフェルト (Dorflinde Langenfeld) の事例を報告する。この村は中規模都市に挟まれた、いわゆる過疎地域で、過疎地域が抱える普遍的な課題に対して、空き家活用や事業誘致などによる諸問題の「一体的な解決」を目指して取り組み、若年層の人口増加の成果を挙げた自治体であると評価されている。本稿が報告する「ドルフリンデランゲンフェルト」は、村全体に配置される一連の施設整備プロジェクト全体の名称であり、同時にメイン施設に冠された名称でもある。なお、報告の内容は、以下の現地訪問とインタビュー、並びにインターネットに公開されている多世代の家、統計情報、同プロジェクトの関連情報を元としている。

- ・インタビューイ：ヴォルフガング・リュッケルト  
Wolfgang Rückert 氏 (プロジェクト立ち上げの中心的人物であり、立ち上げ期間を含む 16 年間に渡って村長を勤めた元村長, 現副村長), アンナ・エベナー (Anna Ebener) 氏 (無報酬の副村長)
- ・訪問日：2023 年 9 月 25 日

## 2. ランゲンフェルト村の概要

### 1) バイエルン州の概要

ランゲンフェルト村は、ドイツ南部のバイエルン州 (Freistaat Bayern) ノイシュタット・アン・デア・アイシュ＝バート・ヴィンツハイム郡 (Landkreis Neustadt an der Aisch-Bad Windsheim) に属する。バイエルン州は、ドイツ各州では最大の 7 万 533km<sup>2</sup>規模をもち<sup>1)</sup>、州都ミュンヘンを擁しアディダス, BMW, エアバス, MAN, アウディ, シーメンスといったグロー

\* 1 東京電機大学大学院先端科学技術研究科建築・建設環境工学専攻 博士課程 / 日本学術振興会特別研究員 DC・修士 (工学)

\* 2 東京電機大学未来科学部建築学科 教授・博士 (工学)

\*1 PhD stud., Graduate School of Advanced Sci. and Tech., Architectural, Civil and Environmental Engineering, Tokyo Denki Univ. /Research Fellow of Japan Society for the Promotion of Science, M.Eng.

\*2 Professor, Dept. of Architecture, School of Science and Technology for Future Life, Tokyo Denki Univ., Dr.Eng.

バル企業の本社や約 60 万社の中規模企業（ミッテルシュタット）が経済基盤を支える、欧州有数の経済力をもつ豊かな地域である<sup>2)</sup>。

## 2) 地理的特性, 歴史, 産業

村は、ドイツ国内の全ての主要都市を結ぶ高速鉄道 ICE (InterCity Express) の停車駅をもつニュルンベルク (Nuremberg, ドイツ南東に位置する中規模都市) とヴュルツブルク (Würzburg, ドイツ中央南に位置する都市) からそれぞれ 50km 程度の距離に位置し、州間バイパス道 8 号線に接するが鉄道はなく、人口流出と雇用機会の減少に直面していた (図 1)。この村は主要都市をつなぐ経路上に開かれ、150 年前からしばらくは、郵便馬車の馬を休ませ、乗り継ぐための中継地点、日本でいう「宿駅」の役割を担っていた。こうした物流・人流の関係もあって約 50 年前まではホテルが 5 軒ほどあったが、交通事情が大きく変わった現在では全て廃業した。今では、村には主要産業と呼べる産業はなく、農業を営む村民も専業農家一軒と兼業農家が数軒という程度である。他の村民は、村内のサービス業や、ニュルンベルクやヴュルツブルクに職を得ている。本稿で記述する村の各施設の運営が、村最大の産業である。こうした産業構造もまた、ベッドタウンかつ過疎地域にしばしば見られる状況であろう。

## 3) 人口と村の財政

人口は約 1100 人で、うち 10 歳以下の子どもが約 250 人、50 歳以上は 500 ~ 700 人である。

財政は郡から独立しており、安定している。税収は、収入税 (給与から、市民が住む自治体に還元される税) が最大を占め、所得税、固定資産税、さらに、国から過疎地域への支援金が群へと降り、そこから人口数によって振り分けられる税金 (日本での地方交付税交付金に該当) がある。

## 3. 集落再生プロジェクトについて

### 1) 実施経緯と理念



図 1 ランゲンフェルト村の立地

村は約 20 年前、地域課題を、①村民の集える場所がない、②高齢者へのケア不足、③経済的効果を生む商業施設がない、④スーパーマーケット (日用品や食品を買う場所) がない、⑤空き家が多数ある、の 5 つと認識していた。この村だけでなく、ドイツ国内では多数の強い経済圏に挟まれた「脆弱な地域」が同様の問題を抱え、廃村の危機に瀕していた。

存亡の危機を村民全員集会を重ねて、「村民が [ゆりかごから棺桶まで] (von der Wiege bis zur Bahre) を村で過ごせること」をプロジェクトの中心理念とした。そして「ニュルンベルクなどの中規模近郊都市に仕事があったとしても "生活は村で完結する"」を実現すべき村民の生活イメージに据え、村一丸となって、①ソーシャルプロジェクトとして運営する、②村の中で需要と供給を回す、③村の中に職をつくる、を達成することを目標に、そのための生活基盤が整備された。

村民の大部分は高齢者であったが、その高齢者が過ごしやすい環境を整えても、若者世代が村に戻ってくることはないと考え、「なぜ村に住んでいた若者が、村から去っていったのか」を分析した。結果、①村に大卒者の就く職がない、②村が地理的に大学から遠い、③村に仕事がない、④村に若者が単身で住む場所がない、の課題が抽出され、そのうち村が解決できる④に取り組み、その後、シニアに必要な場所を整備するといった方針・計画を示した。これらを集会で村民に共有し、賛同を得ていった (表 1)。

### 2) 村の哲学の具現化—ドルフリンデランゲンフェルトの設立経緯

村民の村への愛を求心力に、集落再生の期待をかけた「大きな博打」プロジェクトの初手として、村の地理的な中心に、空き家となっていた農機具小屋を改修してコミュニティスペース/コミュニティレストランの機能をもつメイン施設「ドルフリンデランゲンフェルト」が設立された。さらに、高齢者住宅、デイサービス、診療所、学童保育、独身~家族形成期に適したサイズの家やゲストハウス、共同出資のスーパーなどの分散ネットワーク型での生活基盤整備が、2006 年から現在まで継続して行われている (表 2)。これらの施設整備においては、①民主的であること、②健康とケアを意識したものであること、③栄養的な観点をクリアしていること、④空き家を再利用する、を哲学とし、これらを基に村民ひとりずつをネットワークしていくような感覚だという (図 2)。集落再生の

キー・コンセプトとして共有されている「ドルフリンデ (Dorflinde)」は「菩提樹 (Linden) の村 (Dorf)」の意味で、かつて菩提樹の下に人々が集い、楽しく親密な時間を過ごしたことを思い出そうという趣旨が込められている。ドルフリンデランゲンフェルトのロゴや看板にも菩提樹があしらわれ、中心となる建物のエントランス広場にも菩提樹 (Lindenbaum) の若木が植えられている。他の村内の施設の多くにも、「ドルフ」から始まる名称が冠されている。施設整備の経緯は以下の通り：

- 2008年：コミュニティスペース／コミュニティレストラン、ドルフリンデランゲンフェルトの開設
- 2009年：ランゲンフェルト村のミッション・ステートメントが議会での承認
- 2013年：共同出資のスーパーやクリニックなどの複合施設、ドルフランデンランゲンフェルト (Dolflanden Langenfeld) の企画開始
- 2014年：デイサービス モニホームケア (Monis Häusliche Pflege) の開設
- 2017年：ドルフランデンランゲンフェルトが開設、介護付き共同住宅 オールドベーカリー (Ambulant Betreute Wohngemeinschaft “Alte Bäckerei”) の開設

表1 ランゲンフェルト村のミッションステートメント<sup>3)</sup>

日本語訳	
序文	
ランゲンフェルト村は、人口動態の変化がもたらす並外れた課題を認識している。人口動態の変化は、地方の小さな独立した自治体にとって、次のような場合にのみ克服できるものである。地域社会のあらゆる社会的勢力と協力することが可能である場合にのみ、克服することができる。	
そして、市民参加を通じて一貫して追求される目標を見出すことができる。この目的を達成するために、以下のミッション・ステートメントが、多くの市民と公開形式で策定され、29日の市議会で承認された。	
そして、2009年10月29日に市議会で、2009年11月26日に村のワーキンググループで承認された。2009年11月26日、満場一致で承認された。ライnhalbt・ストレング 第1代村長	
-----	
指針	
1. ランゲンフェルトは、独立した生活・経済圏であり続けなければなりません。私たちの独立は、個人の責任とコミットメントを生み出します。	
2. 村の中心 - 生活の中心。村の中心部の発展と活性化は、村全体の存在を確かなものにします。	
3. 中心が死ねば、樹皮も死ぬ。村の中心部を存続させてこそ、集落の価値が保たれる。	
4. あらゆる世代のための強力なサービス。多世代の集落センター (ドルフリンデランゲンフェルト) は、私たちの村全体の哲学です。	
5. コミュニティは私たち全員です。多くの手と心で変化をもたらすことができます。	
6. 教会は村に残す。両教区を対等な立場のパートナーとして意識的に見なします。	
7. 私たちの協会は、私たちにとって大切に貴重なものです。私たちのクラブは、村のコミュニティのバックボーンを形成しています。	
8. 心と魂の糧。文化は村の人々をつなぎます。	
9. リラックスしてくつろぐ。私たちは人々に、日常生活の中でバランスを見つけるための多くの機会を提供しています。	
10. 私たちは自分たちがどこから来たのかを知っています。私たちはランゲンの故郷の歴史、伝統、方言を大切に、生きていきたいと思っています。	
11. 未来に立ち向かう。私たちは、近隣における持続可能な雇用のための枠組み条件に注意を払います。	
12. 経済と協力の。サービス、貿易、商業、農業は、昔も今も、そしてこれからも私たちにとって重要です。	
13. 今日、明日を考える。持続可能性と環境への影響が私たちの行動を決定します。	

### 3) 保育・教育・福祉整備の状況

村には幼稚園 (表2中の⑨) のみがあり、小学校、特別支援学校、中学校、高校へは、スクールバスが運行している。小学校は6km離れた村に、特別支援学校は20km程度離れたバート・ヴィンツハイム (Bad Windsheim) にある。村の小学生は13:00に日課を終えた後、村の幼稚園に併設された学童バスで送られ、昼食を食べたり宿題をしたりしながら、17:00に仕事が終わる親を待つ。こうした村のバスは、こども、高齢者、全ての送迎で用いられている (写真1)。障害者の雇用については、村で職業斡旋はしておらず、20km離れた別の村に拠点がある。

### 4) 運営と資金繰りについて

村の施設は、村が運営しており、業務委託などはしていない。プロジェクトの主な補助金は、連邦プログラム「多世代の家」であり、集落再生の社会プロジェクトとして社会省に継続的に申請している。現在は年間3万5000ユーロ (400万円) 程度の予算がついている。村は5年ごとに申請をしており、各年変化する

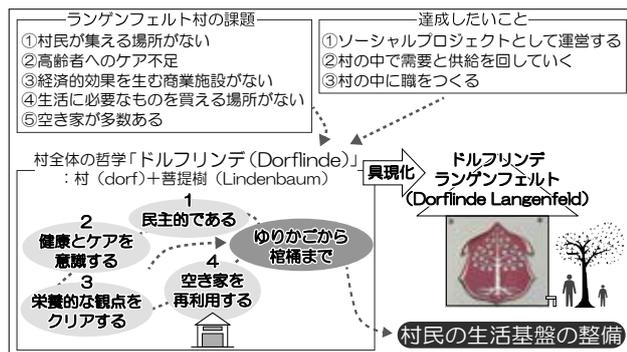


図2 ランゲンフェルト村の課題と、プロジェクトの哲学



写真1 ランゲンフェルト村のバス

表2 村が運営する施設のプロット図と、各施設の概要<sup>4)</sup>

<p>Langenfeld村全体の地図：地図中で赤字の施設は村営を示す</p> <p>0m 250m</p> <p>⑨福音ルーテル デイケアセンター Langenfeld (Ev.-Luth. Kindertagesstätte Langenfeld)</p> <p>⑥ドルフランデン Langenfeld (Dollfanden Langen- feld)</p> <p>③介護付き共同住宅 オールドベーカリー (Ambulant Betreute Wohngemeinschaft "Alte Bäckerei")</p> <p>①ドルフリンデLangenfeld (Dorflinde Langenfeld)</p> <p>②デイサービス モニホームケア (Monis Häusliche Pflege)</p> <p>⑤単身者用アパートメント</p> <p>④レストラン イーラ・メサ (Ela Mesa) とゲストハウス</p> <p>⑦Langenfeld村役場 (Gemeinde Langenfeld)</p> <p>⑧青年会館</p> <p>地図の出典：参考文献4)</p>		<p>菩提樹 (Lindenbaum) の若木</p>	
<p>①ドルフリンデLangenfeld (Dorflinde Langenfeld)</p> <p>所在地 Flößleinstraße 6, 91474 Langenfeld, Germany</p> <p>施設種別 集会所, コミュニティカフェ</p> <p>設計 建物自体はLangenfeld村の所有で、改修も村が行った</p> <p>建築構造 混構造 (石, 煉瓦, 木), 2階建て</p> <p>開設年 2008年</p> <p>提供支援 デイタイムカフェのボランティアの募集と居場所支援, 芝刈りや掃除, 墓の手入れといった家事関連のボランティアの募集とその支援, 車による移動支援</p>	<p>②デイサービス モニホームケア (Monis Häusliche Pflege)</p> <p>所在地 Hauptstraße 10, 91474</p> <p>施設種別 デイサービス, 介護付き高齢者住宅</p> <p>建物 空き家を取り壊した新築</p> <p>開設年 2014年</p> <p>提供支援 高齢者の生活支援, 介護支援</p> <p>1階は、ケアマネが常駐したデイサービスが行われる共有部で、2階の4部屋が介護付き高齢者住宅になっている。訪問介護もあるが、基本は通所でのケア提供である。</p>	<p>③介護付き共同住宅オールドベーカリー (Ambulant Betreute Wohngemeinschaft "Alte Bäckerei")</p> <p>所在地 Hauptstraße 12, 91474</p> <p>施設種別 介護付き高齢者住宅 (12室, 定員12名)</p> <p>建物 空き家を取り壊した新築</p> <p>開設年 2017年</p> <p>提供支援 高齢者の生活支援, 介護支援, 医療支援</p> <p>空き家となっていたベーカリーが壊され、新築された歴史が、施設名に反映されている。Langenfeld村外からの利用もある。24時間体制で医療的サポートが受けられる。</p>	
<p>④レストラン イーラ・メサ (Ela Mesa) とゲストハウス</p> <p>所在地 Hauptstraße 19, 91474</p> <p>施設種別 レストラン, ゲストハウス</p> <p>建物 空き家を改修</p> <p>開設年 不明</p> <p>役割の 経済的効果を生む</p> <p>位置付け 商業施設</p> <p>歴史的価値がある空き家がレストランとゲストハウスに改修された。村外に調理師免許をもつ人によって、ギリシャ料理を提供するレストランとして運営されている。</p>	<p>⑤単身者用アパートメント</p> <p>所在地 Hauptstraßeに面する</p> <p>施設種別 集合住宅</p> <p>建物 空き家を取り壊した新築</p> <p>開設年 不明</p> <p>役割の 単身者などがコンパクト</p> <p>位置付け に暮らせる住居</p> <p>1世帯につき2部屋程度である。村の特性上、部屋数の多い一軒家の建物が多いため、こうした1~2人で住めるような部屋は20~30代の若い世代への需要があった。</p>	<p>⑦Langenfeld村役場 (Gemeinde Langenfeld)</p> <p>所在地 Schulstraße 1, 91474</p> <p>施設種別 村役場</p> <p>建物 不明</p> <p>開設年 不明</p> <p>役割の 村の行政の中心施設</p> <p>位置付け</p> <p>第一村長は一人、第二村長 (副村長) は二人が務めている。役場を中心とした村が運営する一連の施設は、村内で最大の雇用を生み出している。</p>	
<p>⑥ドルフランデンLangenfeld (Dollfanden Langenfeld)</p> <p>所在地 Ullstädter Str. 8, 91474</p> <p>施設種別 スーパーマーケットやクリニックなどの複合</p> <p>建物 新築</p> <p>開設年 2017年</p> <p>役割の 生活に必要なものが</p> <p>位置付け 一箇所で全て揃う施設</p> <p>全村民の居住地から1km以内にアクセスできる立地にある。消防署, クリニック, 整体院, スーパーマーケット, ベーカリー, 銀行のATM, 宝くじ, 郵便局などが複合している。</p>	<p>⑧青年会館</p> <p>所在地 Schulstraße通りに面する</p> <p>施設種別 青少年向けのコミュニティ施設</p> <p>建物 不明</p> <p>開設年 1995年</p> <p>役割の 若者が気軽に集まり</p> <p>位置付け 社交する場所</p> <p>主に14~30歳の村民が利用する。誰でも予約でき、お酒を飲みかわすなど、交流の場として機能している。</p>	<p>⑨福音ルーテル デイケアセンター Langenfeld (Ev.-Luth. Kindertagesstätte Langenfeld)</p> <p>所在地 Am Mühlweg 6, 91474</p> <p>施設種別 幼稚園, 学童保育</p> <p>建物 不明</p> <p>開設年 不明</p> <p>役割の 村に唯一あるこども施設</p> <p>位置付け</p> <p>村の小学生は村外の小学校で13:00に日課を終えた後、幼稚園に併設された学童へ、村のバスで運ばれ、昼食を食べたり宿題をしたりしながら、17:00に仕事が終わる親を待つ。</p> <p>地図の出典：Googleマップ</p>	

審査項目をパスするなどの継続的な自助努力が必要である。

一連の施設整備に要するイニシャルコストの大部分は、大まかに、国とバイエルン州の公共事業補助制度を利用した。全ての各施設整備について、最低でも50%の補助金が出ている。イニシャルコストに対して、取り壊しが必要な空き家の取り壊しには80%、建物の外見を維持した間取りのみの改修には100%、公共の場の設置（医者を常駐させる、集会所の設置など）には50%が補助金で賄われた。一例として、スーパーマーケット建設費の90%、レストラン改修費の40%が補助金だった。同じプロジェクトの枠組みの中で、取得できる補助金の要件が異なるため、各施設内容によって、様々な制度が利用されている。

#### 5) プロジェクト前後の変化

プロジェクト開始の2008年頃と比較して、10歳以下のこどもが150人増えた。共働き世帯からの支持の要因は、家族がこどもの面倒を見られる環境が挙げられる。また、プロジェクト開始前に村から引っ越していった17～26歳程度の若者世代のうち、単身者用のアパートメント新設を機に、村へ戻ってきた例がある。若者世代は、「生まれ育った地域で住みたい」、「(一人暮らしを前提に)親の近くに住みたい」という思いがあっても、一般的に村には独身者用の住居はなく、そのニーズに応えた成果だと考えられる。単身者用住居の家賃は、約50㎡の2部屋で500ユーロと、近郊の中規模都市ノイシュタット市のその2/3～1/2程度に当たり、比較的住みやすい価格設定である点や、ノイシュタットのような都市部では車の維持費が必要だが、村ではそれが不要である点も、若者世代のリターンの要因となった。

また、村に1995年に開設の若者世代がいつでも仲間と社交できる青年会館（表2中の⑧）があることや、活動が盛んな射撃やテニスなどの社会クラブ活動が充実していることは、若者世代にとって魅力のひとつだと考えられる。

プロジェクトの一環ではないが、関連するサービスとして村民はノイシュタット・アン・デア・アイシュ＝バート・ヴィンツハイム郡が運営する乗合タクシーシステムを利用でき、ランゲンフェルト村からノイシュタット市までの10kmの道のりを2ユーロと比較的安価に移動できる。子どもを含む全郡民が配車アプリでタクシーを呼べ、生活に必要なアクセシビリティが

確保されている点も、全世代に利便性を提供している。

#### 6) 現在の課題と今後の計画

空き家問題は、プロジェクト開始前から引き続きある。現在は、特に個人所有の空き家が多く、①所有者は「家に思い出があるから、手放したくない」など売却意向がない、②所有者と村との金額の交渉が必要で、金銭的・時間的なコストが高い、といった理由により、解決は難しい。村が計画するこれらの空き家の活用方法として、①介護付きの高齢者住宅のニーズが高いため、それらの増設、②単身世帯などの居住者用の小さなアパートメントの増設、③自転車や自動車の修理工場がないため、それらの新設、の3つが挙げられている。また現在、25軒の新しいアパートメント開設が進められている。

#### 4. ドルフリンデランゲンフェルトとその周辺一帯の建物について

各施設の位置関係を図3に示す。

##### 1) ドルフリンデランゲンフェルトについて(表2中の①)

###### a) 概要

- ・施設規模: 2階 (1階: カフェ, 集会所, 2階: 集会所)
- ・所在地: Flöbleinstraße 6, 91474 Langenfeld, Germany
- ・運営者: Langenfeld 村
- ・敷地規模: 不明
- ・建築面積: 150㎡程度
- ・延床面積: 200㎡程度
- ・構造: カフェ…鉄骨 集会所…混構造 (鉄骨, 木)
- ・開設年: 2008年。建設開始は2006年で、菩提樹は2009年に植えられた。
- ・平面図: 図4に示す

###### b) 建物の特徴

元は農家の住宅+農機具庫であり、地理的にまちの中心であることから選定され改修された(写真2・3)。

- ・外観: ガラス部分のカフェは外からの視認性が高く、また、L字型の建物に囲まれた庭ではお祭りのように飲食ができる(写真4)。正面に佇む菩提樹の若木は、かつて村民が菩提樹の下にベンチを置いて飲み食いをして楽しんでいた記憶を引き継いでいる(表2右上)。
- ・1階-イベントルーム(写真5): 約60㎡程度、高さ約4mのスペースで、写真右側にある開口部は全面開放できる設えになっており、イベント時などは

外部と一体で使用できる。

- ・ 1階-カフェ・キッチン (写真6, 7, 8) : 約 50㎡, 高さ 2.5 m 程の増築されたスペースである。ボランティアで運営されているカフェでは, ドリンクの提供, 週に 1 度の朝食会の開催が行われている。
  - ・ 2階-ホールとその他小部屋 (写真9,10,11) : 1階のイベントスペースの真上にはホールがある。他, 小部屋が 3 部屋あり, それぞれ続き間になっている。
- c) 利用対象者と提供サービス

隣接する 4 章 2 節の高齢者施設 2 つと中庭を介して, 一帯で運営されている (写真 12,13)。施設群の主な利用対象者は高齢者で, 要介護高齢者が食事や介護を通して一緒に過ごす場所としても使われている。主なサービスは, ①健康に資する簡単なスポーツができるコース (ダンスなど) の提供, ②健康的な食事の提供, ③医療機関へ繋ぐ, の 3 つが挙げられる。コミュニティ施設とカフェは, 村役場の担当者と, ボランティアで運営されている。



図3 ドルフリンデランゲンフェルトの周辺施設の位置関係



写真3 壁面に掲示された建設時の様子



写真4 テラス



写真5 1階-イベントルーム



写真2 空き家当時の様子

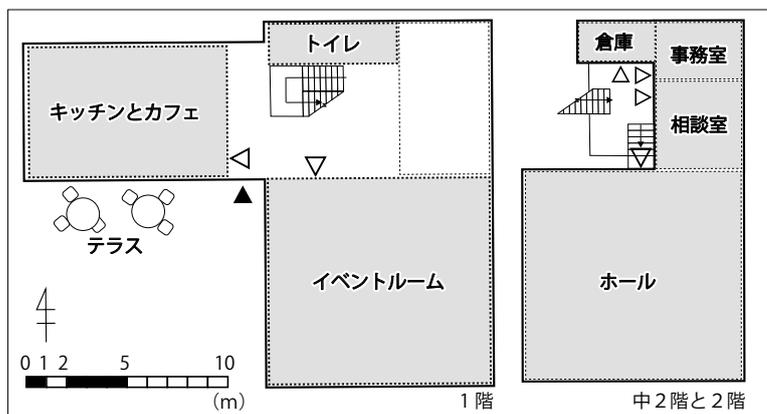


図4 ドルフリンデランゲンフェルトのフロアプラン



写真6 1階-カフェの内観



写真10 階段と中2階



写真7 1階-カフェから臨む正面道路



写真11 中2階-相談室の内観



写真8 1階-キッチンの内観



写真12 中庭の様子



写真9 2階-ホール



写真13 中庭からみた介護付共同住宅「オールドベリー」

主なイベントとして、絵具を使った絵画コース、ドイツでの仮装のお祭り（ファッシング、Fasching）を一緒に楽しむコース、赤ちゃんのハイハイを高齢者が見守るコース、こどもがクリスマスのクッキーの家をつくるコース、こどもが長い夏休みに交流できるコース、編み物コース、PCやスマホの使い方を若者が高齢者に教えるコース、などがある。

2) 隣接する高齢者施設について（表2中の②, ③）

a) デイサービス モニホームケア（Monis Häusliche Pflege）

1階は、ケアマネが常駐したデイサービスで、2階の4部屋が介護付き高齢者住宅になっている。空き家を取り壊し、2014年に新築で開設された。通所でのケア提供が基本で、必要に応じて訪問介護も行われる。

b) 介護付き共同住宅 オールドベーカリー（Ambulant Betreute Wohngemeinschaft “Alte Bäckerei”）

空き家となっていたベーカリーを解体し、新築で2017年に開設した。各居住者に1人部屋が割り当てられており、全12部屋は現在満室である。ランゲンフェルト村外からの利用もある。24時間体制で医療的サポートが受けられる。キッチンなどの共有スペースを広くとるよう工夫されている。元々ランゲンフェルト村に居住していて、村へ多く寄付をしている村民から順に入居できる。



写真14 村所有のトラクターなどが収納されている車庫

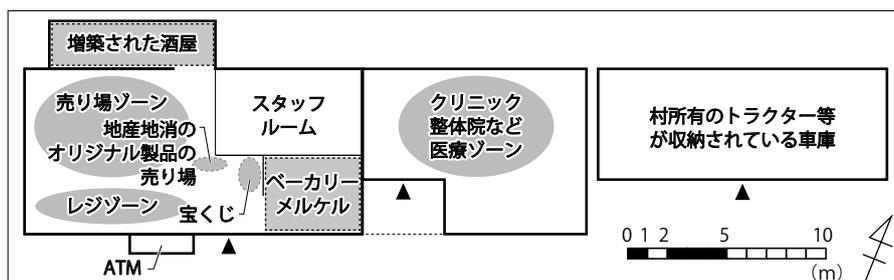


図5 ドルフランデンランゲンフェルトのフロアプラン

3) レストラン、ゲストハウス、単身者用アパートメントについて（表2中の④, ⑤）

村の課題に挙げられていた、「経済的効果を生む商業施設がない」点の解決策として、歴史的価値がある空き家がレストランとゲストハウスに改修された。村外の調理師によって、ギリシャ料理を提供するレストランとして運営されている。これらに隣接して、1世帯につき2部屋程度の小さなアパートメントがある。先述の通り、村の特性上部屋数の多い一軒家の建物が多いため、こうした1～2人で住めるような部屋は20～30代の若い世代への需要があった。

5. 商業+保健の複合施設ドルフランデンランゲンフェルト（Dolflanden Langenfeld）について

1) 概要（表2中の⑥）

高齢者が車を運転するリスクは高いため、徒歩圏で食生活必需品を揃えられる環境の整備は、生活基盤要素として特に重要である。本施設は、全村民の居住地から1km以内にアクセスできる立地にある。本敷地に元々あった空き家を村が買い取り、新築の本複合施設を2017年に開設した（図5）。村の共有財産のトラクターなどが収納された車庫（写真14）、消防署、クリニック、整体院、スーパーマーケット、銀行のATM、宝くじ、郵便局が複合した施設である（写真15）。駐車場には、電気自動車用の充電スタンドがある。

2) 健康維持に必要なものの確保：クリニックと整体院

一生暮らせる村づくりにあたり、村民が高齢になったときに必ず必要な医療の配置の必要性を強く感じていた現副市長エベナー氏の尽力によって、人口1100人に対して、常に医者が一人いる環境が実現された。医者は、①70歳の男性と、②緊急救命のできる35歳の女性、の2人がいて、いずれも村外に住んでいる。他、医療に従事する3人のスタッフのうち一人は村に住む



写真15 施設に複合された各店舗

救急医であり、夜間救急を担当している。医者は検診が主の家庭医の位置づけで、訪問診療も行うものの、基本的にクリニックに常駐している。患者に手術が必要になった場合は、村から10km離れたノイシュタット市の病院に繋がれる。また隣接した整体院は、村民の健康維持に寄与している。

### 3) 全ての村民が良質な食べ物にアクセスできるように:

#### 共同出資のスーパーマーケット

##### a) 運営方式とスタッフについて

ヘッセン州を中心に展開するBIOの品揃えが豊富な食品スーパー、テグート (tegut...) から看板分けと卸がされ、村がその運営をしている(写真16)。テグートは、①フランチャイズ方式での運営が可能であり、かつ、テグート以外の商品(地元でつくられた商品など)を販売することができた点、②BIOなど質の高い健康的な食品の取扱が豊富な点、を理由に、村はテグートをパートナーに選定した。現在、6000つを扱っているうちの3割がBIOの商品である。こうした健康への意識は、村の哲学のひとつ「②健康とケアを意識したものであること」による。地産地消のオリジナル製品は、フランケン地方で採れた果物を使ったワイン



写真16 全体的な売り場の様子

やジャムなどで、看板商品になっている(写真17)。酒屋部分は、2022年に増築された(写真18)。スーパーマーケットに携わる村の職員は10人で、うち、現副市長のリュッケルト氏とエベナー氏とは無報酬でスーパーの運営に携わっている。

##### b) 売上げと共同出資の仕組み

年間で1.7ミリオンユーロ(約2億7500万円)の売り上げはテグートに入り、そのうち手数料が村の売り上げとなる。約300人の出資者によって、140000€(約230万円)をベースに運営されている。1年目は負債で、2年目は少しマイナスであったが、3年目以降から少しずつ利益が出た。現在は1・2年目の負債が解消され、安定した経営状態である。一般的に人件費などが多くかかるスーパーマーケットの運営は利益率が低い。そうした中で本運営の最も重要な目的は、出資金と村の売り上げが1対1となるシステムが継続され、村民が生活必需品へアクセスできる状態が維持されることである。テグートと提携している関係で、商品はテグートが提示する価格で売る必要があることから、出資者が商品を安く買えるといったインセンティブはないものの、これまで出資者が離

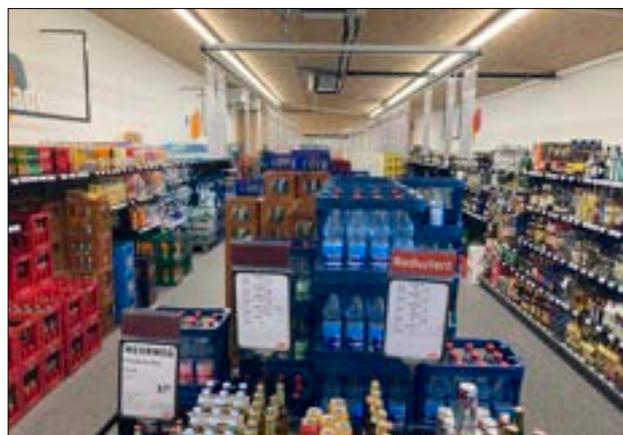


写真18 増築された酒屋(飲料部門)部分の内観



写真17 地産地消のオリジナル製品の売り場



写真19 ベーカリー「メルケル」の内観

脱する例は転居などが理由の3人程度と少なく、いずれも新しい加入者によって不足した出資金は既に補填されている。

#### c) 利用圏域や利用者について

ターゲットは、ドイツではブランド力のあるスーパーマーケットで、ビーガンを中心にBIO製品を買いたい人からの安定した需要がある。村から最も近い店舗は、村から45km離れたエアランゲン市(Erlangen)に位置することも関係して、村から半径20km圏内が利用圏域であり、利用者の大部分はランゲンフェルト村外の人である。

#### d) 併設されたベーカリーメルケル(Merkel)

テナントで、ベーカリーが運営されている(写真19)。オーナーは、ランゲンフェルト村から10km離れた村で第一号店を出店しており、二号店としてこのスーパーマーケット内に出店している。

## 6. まとめ

この村では、全村人が互いに互いを認識しており、村で出会えば互いに声掛けをするような顔の見える間柄である。それはgatedではないがある領域をもったcommunityであり、それを共有commonの施設・機能であるプロジェクト「ドルフリンデランゲンフェルト」が強化している。あるいは、それが現代的意味での「コミュニティ」の枠組みを形成している。これは、かつて自然発生的に、暗黙の了解として非言語的・非構造的に成り立っていた「コミュニティ」とその要素を「村営」で再構築することで、コミュニティとその要素が可視化、共有されている状態だとも表現できる。

一般的に、過疎地域の課題は複合しているが、地域の存続に係る根本的な課題は、「若い人がいない」「地域の担い手がなくなる」であろう。これらに対する解決策として、日本では定住者一辺倒では地域間での人口の奪い合いにしかならないことから、必ずしも定住者の増加を企図しない「関係人口、交流人口」の増加が盛んに言及されている。一方で、ランゲンフェルト村は、村外へ移住していった若者を含む若年者の定住呼び込みに着目している。そして、仕事に通うことができるギリギリの立地であることを活かして、「仕事や学校は村外でも、生活は村で完結できる」をコンセプトとして、福祉(保育、介護、医療)と生活支援(交通、買い物、物流)の拠点をパッケージとして村内に分散設置し、村民の参画によって運営している。当事

例において特に注目すべきはこの①多世代/人生の各ステージに渡る生活全般における「最低限だが十分なセット」の提供、②空き家改修も含む中心エリアへの分散配置、③参加型の決定と運営、④金銭ではない対価(互助、尊敬、生きがい、自分自身の利便性)をインセンティブとするインフォーマルな仕組み、である。

②は村の景観や文化、歴史の保全を伴うと共に村に点ではなく面、また軸をもたらず。人と物の動きが村内ににぎわいとして血を通わせるとともに、身体を動かす機会=健康の要素にもなっているだろう。また、③村が村民に政策方針を説明するプロセスを丁寧に踏み、支持を集めている点は、村民の「自分たちも集落再生に加わっているのだ」といったオーナーシップの育みに繋がったと考えられる。これらは、プロジェクト開始時の村民への金銭的負担や、スーパーマーケットの共同出資のシステムの維持を実現可能なものにした基盤となっている。④必ずしも金銭的対価に拠らないインセンティブはコモンズの運営における潤滑油であり、贈与論的価値観に類似するものと理解でき、今後の社会再編に対して大きなヒントを与える事例である。

## 謝辞

本研究にご協力いただきました皆様に、篤く御礼申し上げます。なお、本研究は、科学研究費補助金(基盤B)(22H01668)「ケア中心型社会の基盤となる持続的な「共在の場」とケアの関係構築に関する包括的研究(研究代表者:山田あすか)」の一環として行われました。

## [参考文献]

- 1) バイエルン州経済・エネルギー・技術省, "バイエルン州について>データ&基本情報", バイエルン州 Web ページ, < <https://www.bavariaworldwide.de/ja/israel/about-bavaria/%E3%83%87%E3%83%BC%E3%82%BF%E5%9F%BA%E6%9C%AC%E6%83%85%E5%A0%B1/> >, (参照 2023.02.22)
- 2) バイエルン州経済・エネルギー・技術省, "バイエルン州について>経済", バイエルン州 Web ページ, < <https://www.bavariaworldwide.de/ja/israel/about-bavaria/%E7%B5%8C%E6%B8%88/> >, (参照 2023.02.22)
- 3) Dorflinde Langenfeld, "Leitbild", Dorflinde Langenfeld Web ページ, < [chrome-extension://efaidnbmninnbpcjpcjgclcfndmkaj/https://dorflinde-langenfeld.de/images/Dateien/Leitbild\\_MGH.pdf](chrome-extension://efaidnbmninnbpcjpcjgclcfndmkaj/https://dorflinde-langenfeld.de/images/Dateien/Leitbild_MGH.pdf) >, (参照 2023.02.22)
- 4) Dorflinde Langenfeld, "Ortsplan", Dorflinde Langenfeld Web ページ, < <chrome-extension://efaidnbmninnbpcjpcjgclcfndmkaj/https://www.dorflinde-langenfeld.de/images/Dateien/Langenfeld.pdf> >, (参照 2023.02.22)